

長畝ふるさと通信



【2021年4月号】

■ 緊急事態宣言

4月25日、コロナ感染拡大による3回目の緊急事態宣言が発出されました。5月11日まで「長く短く」集中して取り組むそうですが、国民はイマイチ納得していないのでは？政府の後手後手の対策に我慢も限界・・・イギリス型、ブラジル型、南アフリカ型など訳のわからない変異株が出現し、更にインド株まで出たそうで・・・中国株が出ないことを心から願うばかりです。頼みの綱のワクチン接種も注射を打つ側の医療従事者にも行き渡っていないなど遅々として進まず、終わりの見えない戦いに戦意喪失って感じですね。何か楽しい話題はないのか・・・

(山ウドの天ぷら、うまいよ)



■ 今年も祭り、やりました！

4月15日、今年も祭り、やりました。いつもなら丁度満開になる桜はずでに散ってしまい、早すぎる春の到来に違和感を感じていましたが、当日は体の震えが止まらないくらい寒い朝でした。鬼太鼓保存会を結成して3回目の祭りです。青年会も20代がいなくなり、一度鬼を舞った40代からまた、鬼を舞ってもらうことになりました。早朝から深夜まで舞い続ける体力が持つかどうか心配しましたが、ベテランはうまくサボるコツを心得ていたようで、何とか最後まで勤め上げてもらいました。はじめは「感染症対策は完全に、自重しながら祭りを楽しみましょう」と一応言ってはみたものの、酒が入ればいつも通りの無礼講となり、コロナの事など一切忘れて飲んで食べて騒ぐのでした。日常の生活がいかに豊かなものだったか、改めてかみしめることができた一日でもありました。やってよかった！来年も絶対やるよ。



■ こちらでも緊急事態宣言

楽しい祭りでドンチャン騒ぎの一方で、おけさ柿の団地では大変な事態が起きていました。早朝に霜が降りて(道理で寒かったはずだ)、大半の新芽が枯死してしまいました。



左が被害の少なかった園地、緑の新芽が枝についているのが確認できます。それに比べて右の園地の枝には一切新芽が見えません。霜にやられて茶色く枯れてしまっています。これでは花はつかず、着果もしませんから当然、収穫も見込めません。佐渡市の被害調査では長畝の生産団地だけで被害総額はおよそ1億6千万円にもなるそうです。昨年のJA佐渡のおけさ柿販売額が約4億円ですから、甚大な被害です。場所によってはほぼ壊滅状態の園地もあり、収穫の見込みのない園地を見て心が折れる心境でしょう。収穫は無くとも園地の管理は続けなくてはならず、しかも一度ダメージを受けた木は2～3年間影響が出るそうです。それでもやり続ける以外ないわけで、まさに緊急事態です。

■ それでも前を向いて

コロナで自粛生活を強いられようが、コメの過剰在庫で生産調整が厳しくなろうが、柿が霜害で全滅しようが生産活動を止めるわけにはいきません。今年は8回に分けて約18,000箱の播種をしました。4月9日に播種した苗は御覧の通り、びっしりと根が生え、しっかりと屋台を支えています。



周りの環境がどんなに変化しようが、土台を支える根さえしっかりしていれば何とか支えることができます。人間の根っこは食糧です。やっぱりコメって大事なんだとつくづく思います。5月から田植えが始まります。今年も根っこの張った立派なお米をお届けします。

おかわりは自由です。